# 「高山小学校の流鏑馬」の伝承活動の取組

**1　学校名**　　肝付町立高山小学校

**2　学年・人数**　　小学４年生（計６３人）

**3　場所・日時**

(1)　練習の場所・日時

教室，図書室，パソコン室（５月～１０月）

四十九所神社（７月～１０月）

(2)　発表の場所・日時

総合的な学習の時間（１１月），教育県民週間（１１月）

**4　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について**

(1)　名称

四十九所神社の流鏑馬（しじゅうくしょじんじゃのやぶさめ）

(2)　由来

流鏑馬（やぶさめ）は鎌倉時代に始まり，国家の安泰，五穀豊饒（ごこくほうじょう），悪疫退散を祈願する年占いである。四十九所神社を創建した伴兼行の孫，伴兼貞が長元９年（１０３６年）に肝付郡の弁済使になり，流鏑馬が始まったのはそれから１００年程後になるようで，９００年近い歴史があるとされている。

(3)　構成等

毎年１０月第３日曜日，四十九所神社に奉納される。神社の前の長さ３３０ｍの馬場に立てられた３本の的を，走る馬上から弓で射るもので，これを３回繰り返し，合計９回を射る。射手は，地元の中学２年生の中から選出する。射手に選ばれた少年は１か月ほど前から稽古を始め，１週間前から「宮ごもり」をして精進潔斎（しょうじんけっさい）をし，２日前になると東串良町柏原海岸に「シオガケ」に行く。

当日は，朝の食事の後，射手は神社から「真弓」を受領し，弓と矢を捧げて騎手として町内を一巡する。その後，社殿の前で３回まわってから馬場を走り抜け，３つの的に次々と矢を放つ。これを３回繰り返し，多く命中した年は豊作というが，９発全部命中することは避けている。

**5　保存会や地域との連携の具体**

高山小学校では，伝統や文化に関する教育の充実を図るため，毎年５月～１１月に総合的な学習の時間で流鏑馬の歴史について調べたり，実際に流鏑馬に使った道具見学や走る馬に乗ったりする活動を，流鏑馬保存会の協力のもと実施している。

このような取組により，地域ぐるみで流鏑馬を伝承していく体制が整い，伝統文化を取り入れた学習活動を通して，地域理解を深め，生き生きと学習に取り組む子どもの育成につながっている。

## 6　文化財伝承・活用の取組の工夫した点

高山小学校では学校と地域が連携協力しながら流鏑馬を継承していくために，保存会との連絡会を通して，地域と連携して流鏑馬を伝承する体制を整えた。

また，県の無形民俗文化財に指定されている流鏑馬を平成２１年度より，教育課程に位置づけ（総合的な学習の時間）地域素材の教材化などに取り組み，継承活動の様子を学校だよりや県民週間，学習発表会で保護者や地域住民に積極的に広報している。

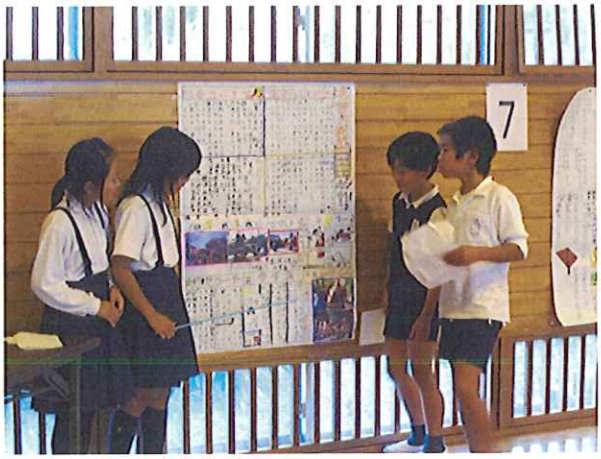
なお，流鏑馬祭り当日は，高山小学校マーチングバンド部による演奏もあり，地域にある小学校として長年親しまれ地域住民も楽しみにしており，地域コミュニティにとってなくてはならない存在となっている。

## 7　取組の様子（練習状況，発表の場等）

流鏑馬で実際に走る馬に乗る児童たち

保存会による講話

学習発表会での展示発表




総合的な学習の時間での発表

## 8　参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

（児童の感想）

私たちは，「流鏑馬」を毎年見にいっていましたが，「今年は○本的に当たった」ということを話題にするだけで，その歴史や人々の願い・思いを考えることはありませんでした。しかし，学習を通して，「流鏑馬」についていろいろなことを知ることができました。

また，乗馬体験をした男子の中には「馬が動くとき少し怖かったけど，流鏑馬に興味がわ

いた」「衣装もすごくかっこよかった。流鏑馬もやってみたい」「中学２年生になったら射手になりたい」という男子もいました。

（保護者の感想）

「流鏑馬」，数十年前，私にも射手の話が来ました。しかし，両親の反対でなれなかったことを今でも思い出します。

今，我が子が町の伝統行事である流鏑馬について学習しています。「なぜ流鏑馬が始まったのか。」「矢が何本的に当たればよいのか。」など，流鏑馬について，本町に住むみんなが興味をもってもらいたいし，理解してもらいたいと思います。一人一人感じる事・思う事は，違うかもしれませんが，肝付町に約９００年前から続く伝統行事のすばらしさとそれを支える町そして人々の思いを感じてもらい，いつまでも受け継いでいってもらいたいと思います。

目指せ，４年後の射手。主役になるのは，君たちだ。

（保存会の感想）

流鏑馬保存会長の益山瞬一さんは，「子どもたちが地元の伝統行事にふれて興味をもってもらい非常にうれしい。いずれは流鏑馬の射手になりたいと思う児童が出てきて，流鏑馬を継いでくれたらうれしい。実際流鏑馬に乗れなくても，この体験で流鏑馬に誇りをもってもらえたら」と話されました。

（教職員の感想）

今回，子どもたちは，まず，書物やインターネットを使って流鏑馬について調べました。そこから得られた情報は，一般的な流鏑馬の起こりや歴史でした。次に，実際に保存会の方々から道具を見せていただきながら話を聞いたり，馬にさわったり乗馬体験をしたりしました。そこでは，本町の流鏑馬の起こりや歴史，道具の種類や使い方はもちろん，保存会の方々の「流鏑馬を大事にしていきたい」「いつまでも伝統を引き継いでいきたい」という熱い思いまで学ぶことができました。また，地域の方々の子どもたちに対する期待の大きさを感じました。そういった意味から，地域の人々から地域の伝統を学ぶことは大変意義のあることと感じました。